

事業の背景・目的

・沖縄県内には数多くの希少な植物が生育しており、その多くが国内希少野生動植物種に指定されている。しかしながらこれら多くの種類について生息域外保全を目的とした栽培や種子保存がなされておらず、またそもそもの個体数が少ないため、その保全上問題が指摘されている。これらの課題を解決するため、種子保存をはじめとした生息域外保全を実施することとした。



リュウキュウヒメハギ (左) とオキナワテンナンショウ (右)

事業の内容

・沖縄県内に生育する国内希少野生動植物種の種子（胞子）を採取し、種子（胞子）の保存方法、栽培方法の検討を重ね、多角的な生息域外保全を推進する。

事業① 種子採集事業

- ・国内希少野生動植物種の種子（胞子）の採集
- ・自生地環境調査
- ・フェノロジー調査



自生地環境調査の様子

事業② 種子保存事業

- ・低温（ -20°C ）、超低温（ -150°C 以下）での保存を実施
- ・シダ植物の胞子については、 -70°C （国立科学博物館）での保存も実施
- ・可能な限り保存前後での発芽試験を実施し、種子保存特性を明らかにする

事業③ 栽培方法の確立

- ・種子保存を行った種類の発芽試験を実施し、発芽したものについて栽培方法の検討を行う
- ・栽培株がある場合は、栽培マニュアル作成を目指し、栽培方法の検討を重ねる

得られた成果

・イエジマチャセンシダの胞子を採集し、一部超低温保存を実施した。保存前に無菌播種したものが発芽しているが、採取できた胞子数が少なく、保存方法の検討を実施するに至っていない。またリュウキュウヒメハギの自生地環境調査、フェノロジー調査を実施し、3月上旬で結実しているのを確認した。

・イエジマチャセンシダについては、胞子を再採取し、胞子の保存条件の検討を行う。さらに発芽したものをを用い、栽培を行い、栽培方法の検討を重ねる。リュウキュウヒメハギについては、現地個体群への影響を考慮しつつ、種子採取を行い、生息域外保全株の確保に努める。

・国内希少野生動植物種のみならず、希少な植物の種子保存方法の検討、生息域外保全を今後も継続して実施予定である。



イエジマチャセンシダ
発芽状況